

城南家保ニュース R5-8月号

熊本県城南家畜保健衛生所

〒868-0042 人吉市蟹作町 1237-1

TEL 0966-22-3814 FAX 22-3617

メールアドレス jounankaho@pref.kumamoto.lg.jp



2022年～2023年シーズンにおける 高病原性鳥インフルエンザの発生に係る疫学調査の報告がありました。

1 発生の特徴

昨シーズンの我が国の家きんにおける高病原性鳥インフルエンザの発生は、これまでで最も早い2022年10月28日に2道県で確認され、その後、2023年4月7日の最終発生までに**26道県で84事例**が確認されました。野鳥についても、これまでで最も早い2022年9月25日に回収され、2023年4月20日までに**28道県で242例**が確認されており、長期間にわたって家きん農場へのウイルスの侵入リスクが極めて高い状態にあったと考えられました。

2 ウイルスの侵入時期・経路

昨年秋のシーズン初期の渡り鳥により国内にウイルスが侵入し、農場周辺の水域に感染水鳥が飛来し、それを摂食した**カラス類が侵入リスク**となった可能性が考えられました。

また、これらの感染源に加え、**近隣農場間伝播の可能性が否定できない事例**も見られました。家きん舎へは**長靴の交換等の衛生対策の不徹底、家きん舎の破損等によるネズミ等の小型野生動物の侵入**が要因となった可能性が考えられました。

3 次シーズンに向けて

本年も秋以降、国内にウイルスが侵入する可能性が高いと考えられます。このため、従来から行っている対策に加え、以下の対策をお願いします。

- ①早めの発生に備え**9月中の防疫対策を整備**するとともに、11月～翌年1月を重点対策期間として対策を徹底する
- ②特に発生農場では消毒・更衣前後の動線の交差や、鶏糞搬出等の従業員・外来業者などの衛生対策が不十分な事例が多く見られたことから、衛生管理区域・家きん舎内へウイルスを侵入させないため、**動線の再確認**とともに、全ての従業員・外来業者での**衛生対策を徹底する**
- ③野鳥・野生動物を近寄らせないために農場内の整理・整頓（カラス等を誘因するこぼれ餌の片付け、止まり木になるような枝の剪定等）、堆肥舎や鶏糞搬出口への防鳥ネット等の覆いの設置、**一見隙間がなさそうな家きん舎の侵入口の再点検等の徹底**とともに、野鳥避けのほか、**フィルター、細霧装置等の設置等による入気口対策を実施**
- ④農場周辺の水域での水抜き、忌避テープ等の野鳥対策、また野鳥・野生動物による感染拡大防止のため安易な餌やり等を控える

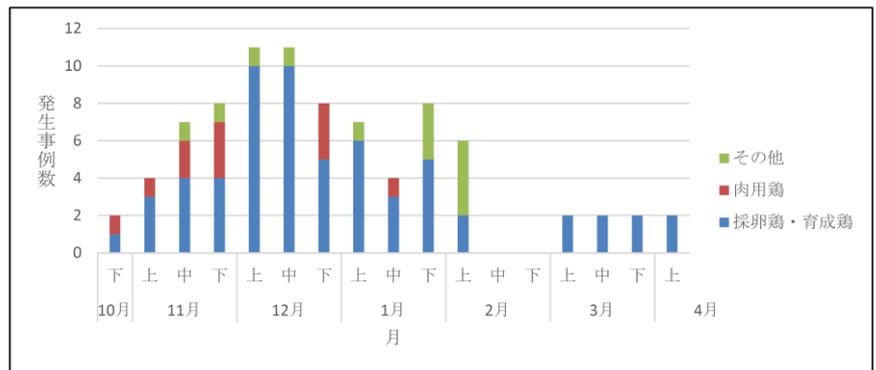


図1 家きん飼養農場における発生事例数の推移

表 用途別の飼養形態と畜舎構造

用途	飼養形態	ウインドケルス	セミウインドケルス	開放	合計
採卵鶏・育成鶏	ケージ飼い	32	11	16	59
	平飼い	0	0	2	2
肉用鶏	平飼い	1	5	5	11
肉用種鶏（育成）	平飼い	1	0	0	1
あひる	平飼い	0	0	7	7
うずら	ケージ飼い	0	1	0	1
エミュー	平飼い・パドック	0	0	2	2
ほろほろ鳥	ケージ飼い	0	1	0	1
合計		34	18	32	84

家畜への抗菌剤の慎重使用をお願いします！

動物用抗菌性物質製剤（以下「抗菌剤」）は、家畜の健康を守り、安全な食品の安定生産を確保する上で重要な資材ですが、その使用により選択される薬剤耐性（AMR）菌の人医療や獣医療への影響が懸念されています。

そこで今回は薬剤耐性対策のポイントをご紹介します。

1. 適切な飼養衛生管理による感染症予防

家畜の健康状態を良好に維持し、**感染症の発生を予防**することは、**抗菌剤の使用機会を減らす**ことにつながるため、以下の対策をお願いします。

- （1）飼養環境（畜舎内の高・低温、高・低湿度、換気不良等）の改善
- （2）適切なワクチン接種
- （3）適切な飼料の給与及び栄養管理



2. 適切な病性の把握及び診断

- （1）家畜の所有者は、**常日頃**から飼養する家畜をよく**観察し**、**健康状態を把握**すること
- （2）獣医師が的確に診断できるよう、発病時期、発病後の経過、過去の疾病等について詳細に伝えること

3. 抗菌剤の適正使用

- （1）抗菌剤は獣医師の指示のもと、**用法・用量・使用禁止期間等を遵守**し、使用上の注意に従って使用すること
- （2）獣医師は安易な抗菌剤使用を避けること。また、人の医療上重要な抗菌剤であるフルオロキノロン系合成抗菌剤や第三世代セファロスポリンなどについては、**第二次選択薬**として他の抗菌剤が**無効の場合のみ**の使用とすること

近隣諸国における悪性伝染病発生情報

近隣諸国における海外悪性伝染病発生状況

病名	型	発生地（国）	畜種	発生年月日
高病原性 鳥インフルエンザ (HPAI)	H5N1	ネパール	家さん	令和5年6月3日
		ロシア	家さん	令和5年6月30日
		台湾	家さん（3件）	令和5年7月
アフリカ豚熱		韓国	豚	令和5年7月18日
			野生いのしし（119件）	令和5年5月～7月

令和5年(2023年)7月31日現在

家畜防疫員のひとこと

梅雨が明けたのにまだまだ雨が続いています。雨が上がると酷暑になるのでどちらも遠慮したいです。早く食べ物のおいしい季節になってくれるのを祈るばかりです。

(M.Y.)